

保護者説明会 大もめ

取手

野々井中統廃合問題 市長も出席

紛糾5時間半 結論出ず



取手市が計画している市内の小中学校の統廃合問題で、同市野々井の野々井中中学校の統廃合問題に関する保護者説明会が14日午後7時から同市寺田の福祉交流センターで行われたが、市側の説明と野々井中に入學予定の保護者や地域住民たち約150人の意見が対立し紛糾。約5時間25分後の翌15日午前0時25分までかかったものの、結論は出ずに物別れに終わった。

(崎山勝功)

説明会には藤井信吾市長も参加して行われた。藤井市長は、野々井中統廃合計画に関する不手際を陳謝したが、野々井中に入學予定の保護者による「入學する子どもたちが卒業するまで野々井中を存続させることはできないのか」との質問には「財政状況が悪化している」などと述べ、教育委員会側は「20

保護者からの質問・意見に答える藤井信吾市長(中央) 取手市寺田の福祉交流センター

11年に統合で考えている」「来年度(09年度)の野々井中の入學希望者が16人しかいなかった」「小規模校では、人間関係などが固定化されるなどのデメリットがある」などの主張を繰り返した。保護者らは市側の回答に態度を硬化させ、市長や教育委員会に向けて「野々井中は、(市内の他中学で)いじめを受けた子どもの受け皿になっている」「少人数教育のデメリットばかりを言っている」

野々井中だけが特別ではない」と回答した。保護者らの厳しい意見に対し、藤井市長は「乱暴なもの言い方はやめよう」などと終始不機嫌な様子で、藤井市長の説明に保護者が途中から反論しようとする、「黙って聞きなさい!」と、激昂する場面もあった。保護者によると、問題の発端は、2月下旬に野々井中入學予定の児童に向けて、決定事項とも解釈される「統合計画の手紙」を配布したことや、保護者、PTA、地壇長などへの説明会の無いまま、突然計画案を新聞発表したことだという。この一連の行為が「住民無視」という怒りの背景にある。これまでに野々井中では今月6日に小学6年生の保護者説明会が約2時間にわたり行われ、当初案の「10年統廃合」のまま協議は物別れに終わった。10日の小中学生保護者説明会では、教育委員会側から時期を1年延長して「11年統廃合」となったものの、「新入生

が中学2年になるころに統廃合されれば高校受験に影響が出るのでもう1年延長して欲しい」との保護者からの要望は受け入れられず、約4時間の説明会も不調に終わった経緯

市では、改めて保護者説明会を行う予定。

◇ 小中学校統廃合計画 市の「小中学校適正配置基本計画」によると、適正規模として、小学校は学級数が各学年とも学級が複数の計12学級以上で1学級30人前後。中学校は学級数が各学年4学級以上の12学級以上で1学級30人前後とした。これに伴い、現在市内にある8中学校を12年度までに6校に、18小学校を16年度までに12校に統廃合するとした。